

(別紙様式2)

普及指導員調査研究報告書

課題名：ブルーベリー新規栽培者（部会員）の確保と育成

所属名：山口農林水産事務所

担当者氏名：安永 真、藤本敬胤、磯部敏之、稲葉晋子

<活動事例の要旨>

大内ブルーベリー生産部会では、近年高齢化が進み生産者が徐々にリタイアしており、廃園の増加や生産量の減少が課題となっている。そこで、昨年、新規栽培講座を開催した結果、新規部会員5名が加入し、園地継承は4件行われることとなり、こうした者を商品の出荷者として育成した。

1 普及活動の課題・目標

新規部会員や園地継承者が出荷者として現部会員と同程度の品質のブルーベリーが生産・出荷出来るようにするため、技術力向上のサポートや集荷場からの遠隔地の横持集荷体制の整備についての検討が必要となった。

2 普及活動の内容

(1) 栽培講習会・園地巡回の実施

栽培技術力向上のため、出荷目合わせ、夏季剪定、害虫防除、冬季剪定について年間4回の講習会を実施するとともに、摘雷・摘花、害虫の発生状況、マルチングの状況等について年間3回の園地巡回を実施した。

特に昨年から問題となっているチュウゴクアミガサハゴロモの発生状況や防除対策について調査・検討した。



写真 講習会の状況

(2) 集荷体制の整備

集荷場からの遠隔地の栽培者のほ場や出荷見込み量等を調査し、横持集荷の必要性・可能性について関係機関で検討した。

(3) 園地継承計画の作成とマッチング支援

園地継承が未定の2園地と新規栽培希望者3名について、マッチング計画を作成した。

3 普及活動の成果

- 園地継承者のうち3名が出荷を開始した。
また、次年度から2名が新たに出荷する意向となった。
- 遠隔地集荷の横持はJAが実施することとなり、出荷が本格化した時点で詳細の条件（1次集荷場所や横持料金等）について決定することとした。

4 今後の普及活動に向けて

本年に新規に植栽した4名を出荷者として育成するよう継続した支援が必要